

麦作情報 第5号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎気象概況

2月11日～3月20日までの38日間の気象は平年に比べ、気温は0.5℃高く、日照時間は112%、降水量は99%となりました。播種後～2月上旬までの低温の影響により、出穂期は平年より3～4日程度遅くなる見込みです。

4月には、赤かび病防除や穂揃期追肥といった麦の品質を大きく左右する非常に重要な管理作業があります。播種時期の違いや平年より遅い生育状況によりばらつきはありますが、適期作業、適期防除に努めてください。

1. 排水対策

出穂期前後の降雨の影響は大きいため、排水対策は極めて重要です。もう一度排水溝の溝さらえや排水溝の連結等を行い、地表面や溝に水が溜まらないようにしましょう。

2. 施肥

タンパク質含有率向上のため、小麦は必ず穂揃期追肥を行って下さい。

しかし、追肥一発肥料のグッドIB506を施用されている方で、例年タンパク値が基準値以上(9.7%)ある方は穂揃期追肥の必要はありません。

穂揃期追肥を実施しても熟期が大幅に遅れることや倒伏することはありません。

<粒状施肥の場合>

品 種	施 肥 時 期(予想)	施 肥 量
チクゴイズミ	穂揃期 (穂揃期～穂揃後7日まで) 11月下旬播種の目安 (4/20～26日頃)	硫安 10kg/10a 又は 尿素 5kg/10a
ちくしW2号	12月上中旬播種の目安 (4/20～30日頃)	硫安 25kg/10a 又は 尿素 11kg/10a

注1) 播種が遅れたほ場でも必ず施用してください。

<尿素的葉面散布の場合>

品 種	施 肥 時 期	施 肥 量
チクゴイズミ	赤かび病防除と同時散布 (1回)	尿素 5kg/10a
ちくしW2号	赤かび病防除と同時散布 (2回)	尿素 5kg/10a × 2回

注1) 高温時(25℃以上)に葉面散布を行うと葉焼け程度が激しくなる場合があるので、散布は涼しい時間帯に行い、展着剤は使用しないでください。

注2) 散布器具が故障しないように、散布後は器具を良く洗いましょう。

3. 赤かび病対策

麦種	1 回目の防除（※注 1）		2 回目防除（1 回目の 7 日後）
大麦	出穂期 12～14 日後 <small>ヤクガラ</small> (薬穀抽出始め頃)	トッジン M 水和剤 1,000～1,500 倍 60～150ℓ/10a 散布 又は トリフミン水和剤 1,000～2,000 倍 60～150ℓ/10a 散布	トリフミン水和剤 1,000～2,000 倍 60～150ℓ/10a 散布
小麦	開花期 (出穂期 7～10 日後)	トッジン M 水和剤 1,000～2,000 倍 60～150ℓ/10a 散布	トッジン M 水和剤 1,000～1,500 倍 60～150ℓ/10a 散布

※注 1 大麦にトッジン M 水和剤を使用する場合は、収穫 30 日前までしか使用できないので、1 回目の防除時期は遅れないようにしましょう。遅れそうな場合は収穫 14 日前まで使用可能なトリフミン水和剤を使用してください。
大麦では出穂期以降、トッジン M 水和剤の使用は 1 回しかできません。

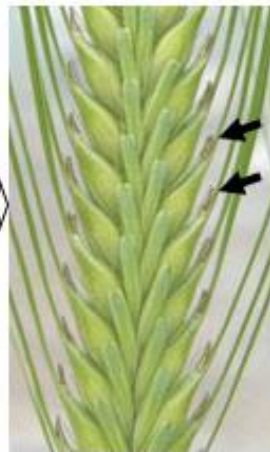
開花(受粉)直後



薬穀抽出始め



薬穀抽出完了



発病(薬穀抽出時接種)



大麦の防除適期！！

★ 出穂期と防除時期の予測★

(1 1 月下旬播種の場合)

麦種名	品種	出穂期 (予想)	1 回目防除時期 (予想)
大麦	しゅんれい	4 / 12～15 日頃	4 / 24～27 日頃
小麦	チクゴイズミ	4 / 15～17 日頃	4 / 22～25 日頃

※ 1 2 月中下旬播種の場合は、上表より 3～4 日程度遅れる。

(参考) 出穂期：全茎数の 40～50% が出穂した日

穂揃期：全茎数の 80% 以上が出穂した日

※ 出穂とは止葉の葉鞘から穂先(芒「ボウ」は含まない)が現れたことをいう。

必ず、各ほ場の出穂期を確認してから防除計画を立て、適期防除に努めて下さい。